



手斧始祭を奉仕する工匠と検知役

【手斧始祭】
手斧とは、縦挽きの鋸が無かった時代、木材から柱や板を取る場合、丸太を縦に割り裂いた後に手斧で削り、槍鉋で仕上げ上げる手順であった。その行程を儀式にしたものが手斧始祭である。社殿地鎮祭と共に行われた儀式では、工匠により、墨矩の儀、墨打の儀、鉋打の儀などが古式に則り奉仕された。

- 地鎮祭並びに手斧始祭次第**
- 一、修祓（斎主祝詞を奏し、神饌、玉串、建設用材、大工道具、工匠、参列員を祓う）
 - 一、降神の儀（斎主神籬に對し、降神詞を奏す）
 - 一、献饌（備え付け神饌の内、瓶子、水器の蓋をとる）
 - 一、祝詞奏上
 - 一、清祓散供の儀（斎主土地の四方及び中央を被い、散供を行う。総代長介添）
 - 一、刈初の儀（工匠長、総代長忌鎌にて盛砂に立てられた茅を刈り取る）
 - 一、穿初の儀（工匠、役員忌鋤、忌鎌にて盛砂を穿つ）
 - 一、鎮物仮埋納の儀（斎主鎮物を中央に仮埋納し、埋納詞を奏す）
 - 一、手斧始の儀（工匠、建設用材を祭壇前に搬入する）
 - 一、墨矩の儀（検知役に従い、曲尺と墨指を用いて材木の寸法をとる）
 - 一、墨打の儀（検知役に従い、寸法に従い、墨壺の糸を繰り出して直線を引く）
 - 一、鋸入の儀（検知役に従い、両木口に鋸を入れる）
 - 一、鉋打の儀（検知役に従い、手斧で荒削りをする）
 - 一、鉋掛の儀（検知役に従い、槍鉋で表面を整える）
 - 一、建設用材搬出
 - 一、斎主玉串を奉りて拝礼
 - 一、工匠長玉串を奉りて拝礼（工匠自座列拝）
 - 一、総代長玉串を奉りて拝礼（総代自座列拝）
 - 一、撤饌（神饌の瓶子、水器の蓋を閉じる）
 - 一、昇神の儀（斎主神籬に對し、昇神詞を奏す）

当社に伝わる賀陽氏の古書（P7参照）によると、ご祭神の吉備津彦命が休息された岩の跡に本殿を建設したと記されている。
平成二十年一月二十七日、社殿建設の基礎工事の際、その場所である本殿前の土中から「休息岩」が出土したため、貴重な歴史遺産として鶴崎神社本殿脇に安置した。



本殿脇に丁重に安置された吉備津彦命休息岩

【吉備津彦命休息岩出土】



【曳家体験】平成19年9月13日、早島小学校5年生125名が曳家工事の見学に訪れ、実際に轆轤（ロクロ）と呼ばれる巻き取り装置で、本殿を繋いでいるワイヤーを巻き取り、動く瞬間を体験した。



【曳家見学】平成19年9月11日、早島幼稚園の園児55名が曳家工事が始まる本殿を見学を訪れた。大きな本殿をどのようにして動かすのか、説明を受け、その大きさに目を丸くしていた。



御神体が御鎮座し祝詞を奏す宮司と参列の総代

【本殿遷座祭】
本殿遷座祭とは、本殿の改築又は修理等を行ったとき、仮殿から竣工の本殿に還幸される場合に行う祭祀である。
平成十九年十月十八日、夕闇の中仮設拜殿から両御神体を鶴崎神社の本殿に御動座する本殿遷座祭が総代奉仕のもと、厳粛に執行された。八幡神社の本殿遷座祭は十二月二十一日、鶴崎神社本殿から再び斎行された。

平成二十年一月二十五日、社殿建設地に於いて総代、工事関係者参列のもと地鎮祭並びに手斧始祭が執行された。
地鎮祭では、社殿を建設する事により、土地の神々を鎮め、神々から土地をお借りする旨の祝詞を奏し、続いて四方に散供、刈初の儀、穿初の儀を行った。



社殿建設地にテントを張って執行される地鎮祭並びに手斧始祭

【社殿地鎮祭】